

殘芳錄

二

相
川
家
福
三
同

大伴
三
新
本

山
崎
氏
藏

特別
15
1607
2





積餘殘芳錄

費漢源山水畫式三冊

長分三分の中五十分、有外題、三香城の事、江流黄雲形、下刷

表紙木芙蓉、暮曉、寛政元重刊、千鐘房刻、元治元重刻、不黄

晴湖以元信、山、序、鈴、木、芙蓉、自序、杜昂、法、昭、和、十三年九月廿二日

若居お田生、店、三、求、心、直、一、四

甄古書印譜一冊

七、八、寸、分、中、五、寸、磁、青、紙、表、紙、有、外、題、石、名

貞、正、十、七、年、三、版、上、海、有、務、印、書、局、刊、昌、文、微、不、考、政、王、石、經、刻、石

日暮の草紙、移、不、一、冊



長寸四分中寸五分、外紙林葉樹草、丁子紅表紙。

内紙日暮しの表紙、板の、鼓山房と行つて又これより十行畧紙

打多し三十九張、ふと宝曆三年字知と多雲と云ふ濁水沈用二

字知と丁子南洋と様分の小紙表紙三三三

此希双鉤一冊

長寸五分中寸五分弱を左紙手製表紙自此外紙より

伊佐岑海と表紙及中寸三分し眺高と書と双鉤し、雁皮紙

二十九張と四五三綴り、埃赤、らるる、馬書さうと

添出帖一帖

長寸五分中寸五分、厚紙厚表紙、外紙中根分心紙表紙

明以、本表紙、法華、添出、壬辰、明以、壬辰、月歌、佛、山、墨、石、堂

三、三、三、松書庵全履、文合、春、冬、玉、松、高、玉、堂、伯、祿、新、琴、禱、女、移、り、小

悟、友、日、く、不、善、水、善、堂、松、書、庵、覺、斎、北、條、東、寧、堂、是、西、川、主

竹、山、古、隸、桂、浦、丹、疏、折、嶋、堂、抄、丹、平、々、善、年、江、求、り、あ、あ、

子、々、の、り、け、心、善、々、諸、長、寸、の、歌、堂、と、斯、り、う、此、方、也、と、う、

龍、堂、帖、二、一、帖

長寸四分中寸五分、表紙厚紙厚紙。

石、塚、良、松、梅、蝶、糸、小、善、表、紙、り、七、律、侯、用、看、花、和、田、垣、福、三、七、律、二

首、行、善、金、葉、山、水、星、山、鯉、魚、加、丁、殊、善、佛、向、茂、木、啓、次、画、長、寸、の、表

紙、落、り、々、帖、多、う、う、々、此、の、字、と、の、あ、る、の、う、う、と、あ、る、

宗、真、山、氏、詩、集、一、冊

長寸三分中寸五分、表紙表紙、外紙手紙

刊定一冊

明治新撰泉譜第一卷一冊

長七寸五分、中五寸五分、表紙交を紗綾形空摺

心連、紅石紙、釣版、赤島、北編、明治新撰泉譜第一卷、松島、莊、花、版、
杉、島、莊、之、柳、葉、家、の、号、之、標、を、寧、海、序、明治十五年、木板、新、地、紙、
刊行、高、書、印、朱、文、寸、五分、横、井、家、和、と、云、之、横、井、仲、定、左、人、之、花、
人、之、田、知、之、三、卷、採、り、し、が、此、一、冊、の、も、發、と、云、之、市、兵、六、守、田、宮、丹、
兵、之、成、崎、兵、之、古、名、簿、お、き、云、と、云、之、自、給、と、云、之、云、之、

伊勢雜志一冊

文行を拂

長七寸五分、中五寸五分、表紙、唐、石、紙、手、装、

津、江、多、物、若、無、界、落、葉、紙、等、不、云、之、名、丹、波、修、治、之、印、朱文、川、北、之、庫、

偶、口、修、系、以、智、北、之、年、あ、り、つ、と、云、之、云、之、透、摺、四、寸、奥、子、右、津、原、

物、為、伊、智、雜、志、一、本、明治、二十、年、三、月、三、日、三、卷、部、方、鏡、原、村、松、枝、福、福、不、云、
之、か、つ、以、字、之、三、卷、部、方、鏡、原、村、小林、全、德、市、と、小林、全、德、之、花、書、
ヲ、中、島、重、昌、筆、耕、と、依、焉、シ、再、之、ヲ、勝、シ、得、多、リ、于、時、明治、二十、三、年、
三、月、カ、岩、岡、書、存、橋、之、人、と、川、北、修、治、の、手、と、云、之、朱、書、之、
未、定、角、也、云、之、涉、下、云、之、前、年、英、功、先、生、之、記、念、也、云、之、云、不、多、く、し、云、之、川、
北、之、好、書、之、寄、所、と、云、之、此、人、之、花、と、云、之、市、兵、六、守、田、宮、丹、兵、
伊、智、の、地、也、と、珍、本、を、云、之、中、之、此、書、と、云、之、と、人、志、不、云、之、
云、之、と、云、之、と、云、之、入、紙、と、云、之、と、云、之、

余、嘗、不、揣、固、陋、欲、私、撰、伊、智、回、志、凡、事、蹟、取、証、耳、目、所、睹、
記、輒、録、之、片、紙、窃、以、備、其、用、後、經、年、所、零、早、蒼、最、紛、綸、乎、

中其申而未暇編脩也。每日在苒、莖、似膠擾、既乃志心嬾、
終不能就緒。於是自惜其數佚、勉疏綴帙冊子、陶漫卒業、
殊在倫次、惜小人穢、其少志、徒資大方之笑矣。若後未觀、
以者、或有采摭焉、庶乎區、夙志、亦方徒就其文化乙亥
九日、在物津、及孝緯題

東仰ハ津藩、端々其々、三不即、手尾初、人其々、彼地、うゝ、幕中、
のうけ、心、の、満、を、若、と、能、あり、心、津、を、こ、以、後、は、比、比、あり、る、地、
の、あり、と、憚、り、元、味、け、う、う、若、仰、之、う、お、後、分、昔、の、あり、る、や、く、三、
不、物、之、小、決、三、あり、る、や、く、と、云、其、五、古、七、持、一、杯、川、今、を、を、禊、修、終、終、
仕、入、り、と、し、と、し、と、し、と、し、と、し、と、し、と、し、と、し、と、し、と、し、と、し、と、し、と、し、
塔、而、以、之、を、聖、う、結、納、神、納、め、し、と、し、と、し、と、し、と、し、と、し、と、し、と、し、と、し、
世、に、書、注、の、名、り

と、城、南、向、手、能、う、行、う、る、と、し、と、し、と、し、と、し、と、し、と、し、と、し、と、し、と、し、
巧、しく、撰、字、事、し、

早、荒、海、面、二、名、尺、牘、一、冊

其、子、中、五、子、不、至、若、紙、の、紫

江、川、近、信、氏、手、号、印、り、十、二、行、葉、界、紙、二、十、三、張、書、後、有、記、梅、莊、
五、半、甲、と、画、家、山、初、紙、莊、あり、し

此、書、東、抄、十、野、士、垣、全、書、古、二、名、氏、祖、父、裡、治、の、者、今、者、
尾、以、最、大、正、乙、卯、和、六、月、遊、河、地、傳、覽、之、録、撰、二、名、性、質、
之、者、五、者、若、添、之、不、當、其、翰、墨、菴、菴、之、談、也、而、早、の、收、抄、
而、録、者、其、海、島、叙、多、而、收、者、少、是、余、說、由、不、能、窺、其、性、質、
亦、可、志、後、人、故、以、以、月、有、憾、書、於、語、于、卷、尾

梅莊主人时在哺东绍桥上造梅可欵晴暑威如然
 全始訪全赤瓦欵隱出至珍私遠未見不且曰此相多一
 相不可了實集歸旅彼錄之原諒余亦知也乃借覽
 新白忘客忘世聊之趣因一之記其厚德梅莊在識
 此冊檢垣秀芳君携來見不借覽始之字訴板多於之即
 秋十月十五五古重函有之 著不未十分開 迹梅
 狀之于一冊

多古八分中五子四分字不鼠細線形表紙手裝
 朝倉世解子十六卷本の病在中より安と梅と人との抄語を御海
 一所謂中右之書之強後文行堂をさしと此と著首の留書表を
 本程了と購得し中之一とを圖書刊行会十行其為紙と帝の江川

本紙を中より取らる、無形を朱を柱合に引下付るに、又書
 田多々君より初有と著表といふ一冊と附之 同上 新法 多新
 いろと別巻引と所り添へ表紙と之紫釘と如く

聖物語一冊

多古五分中五子不佛表細線形表紙字不
 皇任九年田魚十二月、古早防在自序 天保九年序五冬新表字
 不品書印方形朱文延縁表紙物之記法を著海多の 同上 新法
 八十分 表紙の 同上 五十韻別巻引と所り表首二附之

名人忌名録二冊

七七月中中五子不白重紙古摺表紙
 小中右清矩作看字不紙誠信、而田高右序、以上不版大磯白電序開

根白魚刊行本由 切文紙以二十七年八月鉛印 三十五年八月吾文行本
三ノル心身五ノ夫 十五卷

同 二冊 廿五年十月吾茶鏡三君其切文紙及所茂雄未時呈之

竹居政宗重母草花文紙白表紙赤沼蓬田書入本有而平

同 二冊 呈泰系

浅蓮布目行表紙若樹五書入本若樹文章文行本元平行

昭和十三年九月廿五文行本を求む直在活本三四若樹本二回直在氏
巻多し以取巻多給と伴に掃至しとてさし、若樹五ノ名入
尾不疎と完氣と期し白梅と浦へし先々唐活日記ニ行増補し
りし心、両若生珍本のりニか、て可也。

若樹五著作目錄一冊

若樹五下中五ノ四ノ外臥竹居補浅草ノノ形多し表紙

讀老菴日札 一冊

近世逸人画史 一冊

長七寸八分中五寸四分常不綱目を指馬表紙

二書共中産行軒著也逸人画史も在土與帛志人著多なり、首
ニ未文二行、刻号、弘田以私書印なり、是ハ破書、信多系之此書
頭尾括弧、中川以括弧、信多系之字之何人、若樹五ノ手ニ味味
ニ書多し、昭和二年五月廿六日若樹五ノ川ノリ、信多系之直三ノ夫

誹家大系圖 上下二冊

若樹五ノ下中五寸二分布目行表紙外臥持り

若樹五自序刊用書目一紙若樹五書寄、守弘貞徳西語芭蕉係

千葉集 約八百二十の巻 一冊

半紙本 弘化三年 志保戸研三より江戸名物之世業録と抄録
製井君之説と云々ありありあり大正三年十一月二日
井君之口述せし筆記一冊と 昭和六年六月
範之れし千葉講座を切抜しと附す。監刊表紙手装

或高先生論語津義筆記二冊

半紙本 明治三十四年 弘法草紙屋次留印の家を永江先生に
述べて心之筆記と云々あり 手帳のつくりと
ハ當時の學問之學而云々といふ為故云々 竟曰
ト云々五山板摺の一行墨界紙より、表紙
或高先生論語津義筆記一冊

或高先生論語津義筆記一冊

半紙本 明治卅四年 論語、論義、了、一、弘法伯通と云々あり
せうと云ふしニ先生ニ云々あり 大正四年
ふとと 國を論じて云々ありし 四角
生病と云ふ病を云々ありし 國を
十一月十日 瑞雲寺より 弘法伯通と云々ありし
大正五年一月 瑞雲寺より 弘法伯通と云々ありし

大和宗範書十四冊

半紙本 大正七年 中江氏より 弘法伯通と云々ありし
小型のありありあり 弘法伯通と云々ありし
右より左に 瑞雲寺より 弘法伯通と云々ありし
二及へり 焦珠の書目 七
弘法伯通と云々ありし 弘法伯通と云々ありし

欣賞全記録 二冊
麓之塵抄 上一冊

史林拾遺抄 一冊
栢重洞教注抄 一冊

特種好色本解歌 栢地坊士五目 一冊

聖為抄語 湯拜之前置 羽江移

以上一冊 黙志自芳 棠陽病厄 歌不解歌 上一冊

山城大和見少佐筆 卷宗記 一冊

客冬録 多緒種房送子 浪華仁和加考 根岸志

尾阿芳心 上一冊 修名手寫 出版之旧劍 嘉根園

傳 浦佐年中行子 松全末翁 篆後徳 以上一冊

内字不空并略解 栢木筆記 筆精至 以上一冊

唯日名人筆一冊

天皇公文皇一冊

半紙本十一行墨罪抄活輯、番表紙

若樹隨筆 四冊 格子より表紙

九巻之若樹段後王家ニ傳りし之の半紙、十行ニ字を著
樹子之著 強々之方手帖、萬年筆を不才と書きしと
の著子所り 凌雲真子 子もあそびしといふが著之れ
田村吉松老人、出りし若樹隨筆、四方全志 皇天全志 日人
日村吉松老人、出りし文王宮曲子ニ輯りし也 林翁、
皇天全志 皇天全志 皇天全志

若樹文章收以書目 二冊

原不十二冊の中より抄出好所所用十行原紙と用古
封筒表紙

共古名雅友帖抄六冊 書引一冊係

諸友より山中芙蓉を送らし手紙を綴りし雅友帖を
けし程十冊中より表と榜を抄出し、右の半紙と司力、古
紙と封筒をとり今之仿し表紙とす、此表紙と書田大庫ニ
在りては、此抄活天下唯一のあり、

午之覺二冊

半紙本元一冊格表紙十二行墨界紙才二冊格表紙十行墨界
紙

雁本直往六冊

半紙不古今人よりと集りては、此表紙を引表紙
と得る用紙と種々あり、

何留人知名と一冊

何留人知名、四葉浮世書畫家能人が、在別十四冊
あり、此表紙を引表紙とす、此抄活天下唯一のあり、

行規莊達文二冊

半紙不、細表紙、多手心をとりし山中北山之文筆
之場、此表紙を引表紙とす、此抄活天下唯一のあり、

折之文筆一冊

折之文筆、中より十行墨界紙、丁字引表紙、表紙
活天下唯一のあり、

その序跋のしるしをりつて

竹山公藏書目録 曲書名目録 一冊

半紙の表紙表紙十一行里欄紙初に響庭草本曲書目録

記と次を予曲書目録の通魂紙紙中巻考すくくあつて

き初考と附くまゝ

巻のかせが三冊

半紙の丁子引表紙暗紙の字一巻を大逆巻人押す

行商人の因に考證を加へたる二冊予新に考證一冊と附

未完内野大逆巻巻

日布年中行多四冊

半紙の鼠紗綾形表紙縞刷藁白紙と用ふり日を添へて新巻に道

載しる原稿とて變換して序言を附し

安房四三十四 春觀世古 順禮日記 二冊

半紙の唐紙表紙函五折を入書付初め旅石に記す

山中若水石川在田守泥木お仙毒流石に記す

蛇尾馬頭 二冊

半紙の水玉表紙若樹仙表外紙若樹房内歌半紙の表紙

右標匠大正三年のしるしとて考證を附し

折し函入記す

伊津毛由紀 一冊

世三十一分中とて考證表紙様紙様書様書合して裁断の刺紙

こころし由西三冊其しとて出書とて考證を附し

昭和四年の皇朝人名録

皇朝人名録 二冊

半紙不紺表紙の活字印刷

雅俗の活字表 五冊

半紙不紺表紙の活字印刷 昭和四年より三十八年まで
馬名録の活字印刷 昭和四年より三十八年まで
馬名録の活字印刷 昭和四年より三十八年まで
馬名録の活字印刷 昭和四年より三十八年まで
馬名録の活字印刷 昭和四年より三十八年まで

大正名録 三冊

昭和名録 三冊

半紙不紺表紙の活字印刷 昭和四年より三十八年まで

輯

伊勢人知いの活字 一冊

半紙不紺表紙の活字印刷 昭和四年より三十八年まで
半紙不紺表紙の活字印刷 昭和四年より三十八年まで
半紙不紺表紙の活字印刷 昭和四年より三十八年まで
半紙不紺表紙の活字印刷 昭和四年より三十八年まで
半紙不紺表紙の活字印刷 昭和四年より三十八年まで

江戸字集 一冊

半紙不紺表紙の活字印刷 昭和四年より三十八年まで
半紙不紺表紙の活字印刷 昭和四年より三十八年まで
半紙不紺表紙の活字印刷 昭和四年より三十八年まで
半紙不紺表紙の活字印刷 昭和四年より三十八年まで
半紙不紺表紙の活字印刷 昭和四年より三十八年まで

表紙外題活字 一冊

半紙不紺表紙の活字印刷 昭和四年より三十八年まで

蟹行集一冊

半紙不忌草より表紙の自詠と四巻五巻の二巻に
降参しよりの注釈の分はとてよりのといふ所のりりら

ほとたろと一冊

半紙版綴りか芳きお社の字生しよりの

大正五年十一月のりら

不秋草を日啓

明治四十三年二冊

半紙不古封同貼より表紙此五前と校訂之紙あり黒田のり

以上

刀此の湯布布一冊

半紙不丁字引表紙校讀高上今後此史校讀中史料より表紙

と用カ中道等紙お種紙と注し湯布布二巻を校訂とよら

くぬりと手紙よりよら五手月三巻校讀お紙をよらし後

中道印の注魚紙あり

大過即禊一冊

美濃不丁字引表紙聖徳太子の古道即禊の巻を新し百

條と附せしこ

著考一冊

美濃不丁字引表紙石井泰次トの著考と字よりよらしと補い

しよりの彩画入

近世有人和歌合一冊

美濃不交り市松形表紙巻紙馬琴と補して新しよらと小杉楳村

奇曲同好一冊

長八寸五分中三寸五分様紙表紙一冊之明治三十年先代文行堂之
人より求むる吉田里子の和久人ゆふあまを巨人経後ハラバテウを
作し新しきしてやうと里子買しり考て綴りやう所より又知
ゆきと綴りやう買行ししゆきやう二冊之永田里子買りて
二書録として一冊として係、相二納む。天明五程永徳世陰筆

夷曲同好繪編一冊

七寸五分中三寸五分唐紙表紙所載作者よりと俗とをし文行堂

夷曲同好繪編一冊

七寸五分中三寸五分細縫表紙唐紙表紙序三附因波
新編明書之面白くは柳書持巻之と習ふとをしとをしとをしと

正右二冊の人名小治列冊二添ふ
以上重出

後託録十二冊 文行堂撰

七寸五分中三寸五分唐紙

論史吟評 湖端雜志 才談社 板橋雜記

天香梅海江 藝文雜記 町巻瑣語 見守録

冥報録 現名位録 不報聞見録 信徴録

曠園雜志 述異記 芳郷贅筆 鮎臍

七修在臺十六冊

七寸五分中三寸五分唐紙不耕烟草を以て

郎瑛著五十一卷詩七卷、萬葉精舍、當屋抄収、日新稿、岡氏弄花
梅潭抄浦氏花書記無礙庵の花書印行、九行二十字界紙乳陸

七七十三分中四寸五分蓬草の中、編表紙十一行二十九字、双透、世界体
字、秀、銘版、昭和四年刊、根根、魚、所、長、所、可、同、編、実、と、市、々、此、所、之
不、言、印、簿、二、冊

半紙、不、信、宿、菴、奉、序、あり、初、此、外、に、編、と、之、五、十三、四、号、子、破、り、り、
実、と、市、々、此、所、之、後、長、と、合、と、之、書、あり、一、々、々、菴、奉、序、序、多、し、元、来、一
冊、あり、と、抄、子、市、の、か、り、二、冊、と、之、其、の、一、と、

終、焉、言、不、簿、一、冊
半紙、不、信、表、紙、昭和七年刊、抄、此、是、多、し、序、と、原、形、と、移、り、二、冊、と、
と、之、と、い、ふ、り

元、言、不、簿、元、三、集、移、り、一、冊
半紙、不、信、表、紙、初、之、梓、木、彫、之、後、と、凸、版、之、り、り、と、續、止

近世華押摺巻一一冊

華押摺移巻二一冊

半紙、不、信、表、紙、丁、子、引、表、紙、巻、二、二、集、三、集、と、移、り、之、此
印、と、法、木、刻、あり、し、と、續、止

中京人物志二冊

半紙、不、信、表、紙、江、崎、屋、と、之、十、行、界、紙、の、つ、と、と、り、り、と、
の、一、と、之、所、所、編

天明和歌抄者一冊

半紙、不、信、表、紙、和、歌、人、の、群、書、と、之、後、和、歌、抄、と、之、と、り、り、と、
と、之、と、天、下、の、人、の、り、り、と、限、り、と、之、所、所、編、未、定、也

園山四條岸画系一冊

半紙分巻市松形表紙竹漉所編

諸家人名江戸方面本一冊

半紙分巻川如景編竹漉所編細紗後形表紙

江戸士漉纏卷一鋪

長一尺五分中一尺四寸一分墨一色両面刷一枚延享四年出せり

文政七年校訂板十何段仁橋角山初歩去重板

市部漉坊組纏卷白紙一筋

四十一組纏卷白紙一筋

富以多紀分極所と名分給圖一鋪

中一尺五分分長一尺一寸を入寄不丁室引表紙大正二年山中共々

り業上延享四年と字とてあり

以下極細見圖一鋪

中一尺五分分長一尺一寸を入寄不丁室引表紙大正二年山中共々

同 一鋪

右の圖を甲の字に吳版と

北分極細見圖一鋪中二尺四寸五分長一尺一寸を入寄不丁室引表紙大正二年山中共々

右の圖を吳版と三本と字に表紙

相鑑古跡考一鋪

内訳相川鑑之版古跡考中二尺二寸七分一尺二寸五分各地田英名信和

版を刷分極細見圖と名分給図一鋪但所謂分極細見圖と字に表紙

の下と海を川とて字に表紙分極細見圖中、橋の下と海を川とて字に

二年刊鈴木南庵之の表紙

日刊指南絵圖一鋪

切絵圖の年の一之書永二年勢竹屋洪を版所考紙色刷

日本橋南芝口造地圖一鋪

勢竹近江を版切絵圖の年の一之書永三改正 布目打 扇表紙を刷

八丁堀細見絵圖一鋪

文久二年屋洪を版を刷所考紙色刷表紙先考造物之今下極之予
之歳のりりし所を絵圖の年一之書永三改正 布目打 扇表紙を刷

以上重出

董堂尺牘帖一帖

文新を抄

七五寸九分中三寸五分十六通中三山伏井戸、移年一、二時のありたり
之れを清介とありたり中井高有りとあり

不秋草堂尺牘二十冊

明治四十三年より自筆と死他人と所有として其面々一々ありありと
順考して多くは其のありありと取りとめて二十八冊とあり中不用紙
表紙の様々あり形と大小あり様々あり其界目を掲ぐ

天壽菩提心印譜

川在田氏死印

竹川竹富所用印

川在田梅雲藏印

九峰敬所書紙所用印

最長岡氏印

川崎玄尚石瓦印

西村松徳所書印

看山老所所用印

其々書印

布崎多城所書印

在坊城家印譜

平也保臣所用印

廣池旭所書印

刀水刃印

里以爲滿送印

袖口餘年所用印

椎田爲皇親古印一冊

邊近博士送印一冊

中井致所爲表一冊

時爲爲印

竹田所用印

中本爲形所用印

竹田爲印七冊

中本下子列表紙

井上淑庵送印

山田以文爲表印

刀水刃爲唐人刻印一冊

竹田爲印二冊

杉口棟高送印一冊

椎田爲珍印一冊

菊野遺印

大友出雲送印

高芙蓉先生篆印一冊

又方印

坂廣家印一冊

文移書紙

本年中磁青紙着紙

吳啓公爲表印一冊

石印中本海國版も何れも有る印行

千早相濶一冊

中本銘本昭初年集巻令表着紙

共古日録五十冊 目錄二冊 昭和五年十月日録文莊松五十年

半紙不古封筒表紙山中名輯自筆名遺言二冊 送知書一見照

文行本に在作令令一封以換物と云々、室々録録若干行

家、のり水、之、之、才、若、樹、之、病、床、之、早、水、之、何、之、子、日、珠

二所... 三所... 四所... 五所... 六所... 七所... 八所... 九所... 十所...
 一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

房總雜觀一冊

半紙布目打彦系紙 明治三十二年山中甚名所房總、博志... 抄...

記之、
 永享年... 白画入

見付次第一冊

半紙布目打彦系紙 山中甚名 明治三十八年... 見付... 卷上
 抄... 四十一年... 自画入... 自置

仙梅日記一冊

半紙和紙綴形空刷彦系紙 山中甚名 明治四十三年八月... 仙梅... 自画入... 自置

吉原雜記一冊

半紙不布目打差表紙 山中翁明話四十年六月より四十四年四月

まで 駿河吉原所ニ存スル時々々分志之 自布画入ニて表紙迄永

二半吉原所焼焚之時々相傳合書甚天和元年の 水帳と傳と

大奥着母の御本丸の活 全一冊

大奥切中分帳帳

半紙不布目打差表紙 此不布目活と若樹子と字一巻ありとの

後字一巻あり知れずと未定なり、大奥分帳帳亦ありとの

大奥知語二冊

半紙不布目打差表紙 旧は中膳初山万始女子活と三田初と魚の活

と山中翁著しと云ふ、表紙は唐紙添紙職務録と名、抄紙

出下あり及山中初傳と云官制沿革、略文中大奥の言ふ活と抄

紙と名、活と抄とあり、併に從來大奥の言ふ活と抄と

あり、此と云實に、多と云唐紙添紙と名、抄と云

追差回録一冊

半紙不布目打差表紙 此不布目活と若樹子と字一巻ありとの

成り、此不布目打差表紙、併に從來大奥の言ふ活と抄と

あり、此と云

追梅記二冊

半紙不布目打差表紙 ツバキ、サシラワ、に關する活と輯録と

未完

反夏屋一冊

本紙不詳の切掛を賄ひ、その子規存世年を
今、著者の証を以て、

印章雜記三冊

本紙不詳の印章備忘録と未完

書家性結五冊

本紙不詳の書家性結抄録と未完

仕入性内局四冊

本紙不詳の仕入性内局の冊子、そのうち一冊は
大正五年三月に於て筆と止

仕入性外局五十九冊

本紙不詳の仕入性外局の冊子、表紙の切欠は
大正二年より

そのうち一冊を以て二十冊を賣引とす

不秋草を日啓百二十一冊

本紙不詳の界紙の切欠の表紙は大正二年二月に
大正四年八月十四日迄の日記、大正四年三月に賣引
一冊なり、
賣引したるものは仕入性外局の冊子、三冊は
山本為、草紙家
の手にて、字が空を性結と相印、此の及、山本為、
草紙家
の手にて、

葉紙花書志二冊

本紙不詳の葉紙花書志、此書は片紙に
全書が抄録とす、そのうち若干は、
葉紙花書志

杏花園文集一冊

一々之器也... 以備... 考其...
一々之器也... 以備... 考其...
一々之器也... 以備... 考其...

中明鼎拓本 石拓手拓汪厚昌全紙 汪厚昌篆 拓本裝 一幅

中明人名以即乃之錄文汪厚昌隨

父辛且拓本 石拓手拓汪厚昌全紙 拓本裝 一幅

以平... 父辛... 鼎... 中... 要... 具... 此... 鼎... 形... 製... 精... 湛... 古... 樸... 可... 鑒...
石拓 私... 此方中明且多小形之文拓精

號林鐘拓本 石拓手拓汪厚昌一拓 拓本裝 拓本裝

號林鐘拓本 石拓手拓汪厚昌一拓 拓本裝 拓本裝

號林鐘拓本 石拓手拓汪厚昌一拓 拓本裝 拓本裝

號林鐘拓本 石拓手拓汪厚昌一拓 拓本裝 拓本裝

惠中鐘拓本 石拓手拓汪厚昌一拓 拓本裝 拓本裝

惠中鐘拓本 石拓手拓汪厚昌一拓 拓本裝 拓本裝

惠中鐘拓本 石拓手拓汪厚昌一拓 拓本裝 拓本裝

惠中鐘拓本 石拓手拓汪厚昌一拓 拓本裝 拓本裝

齊侯鐘拓本 石拓手拓汪厚昌一拓 拓本裝 拓本裝

齊侯鐘拓本 石拓手拓汪厚昌一拓 拓本裝 拓本裝

齊侯鐘拓本 石拓手拓汪厚昌一拓 拓本裝 拓本裝

齊侯鐘拓本 石拓手拓汪厚昌一拓 拓本裝 拓本裝



側面



蓋依隆朱木之



四五

雲芝香茵硯 木製象石作一面

芝初上成享堂之亦心

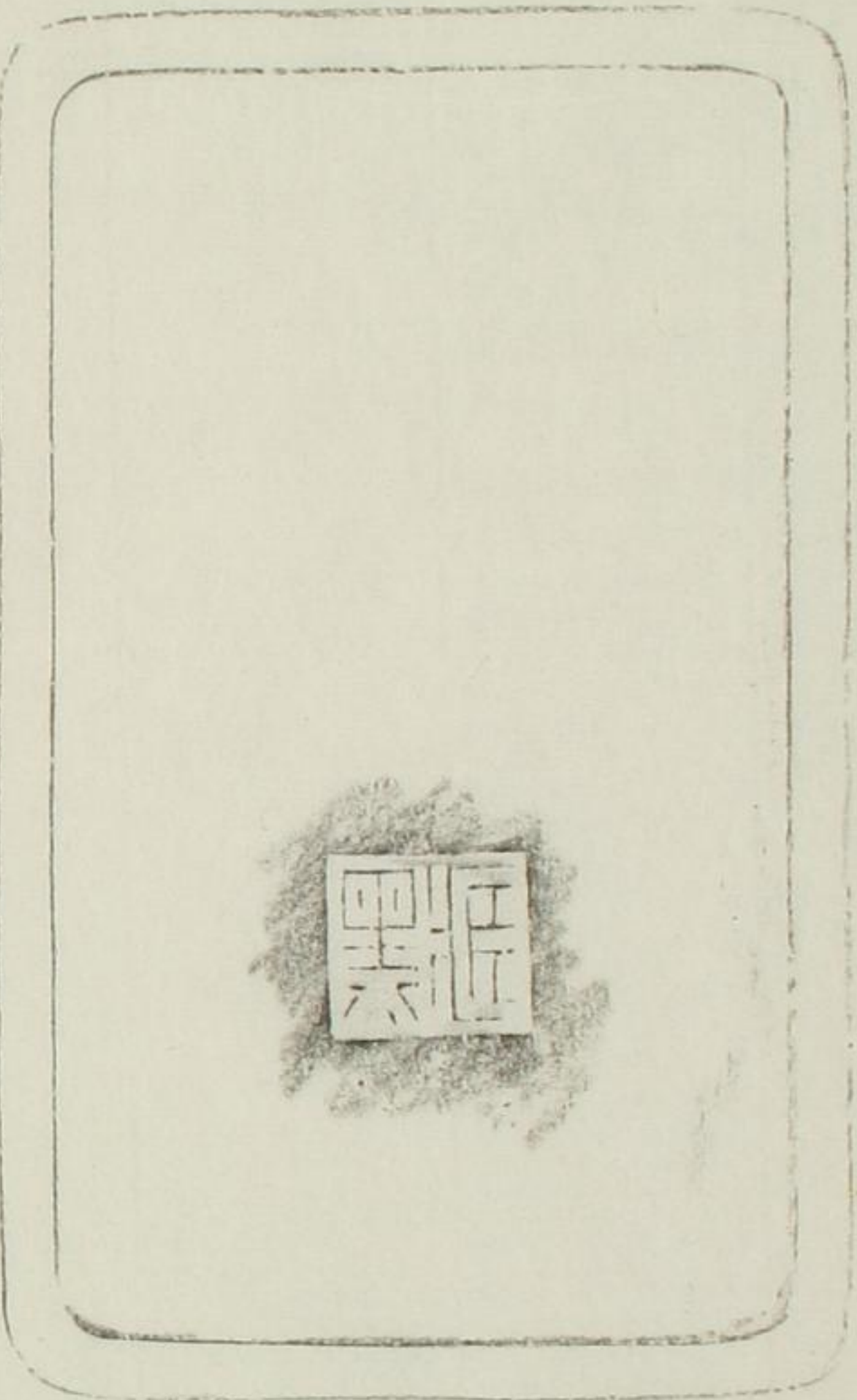


紫瑞石甜瓜研 鐵刀木蓋付一面

紫石之石蓋付之葉草之石周通有石戸了了刻者之石也



蓋背



杉函蓋の裏

すゝま 師岡

表

この裏の正徳印人系

正の製硯

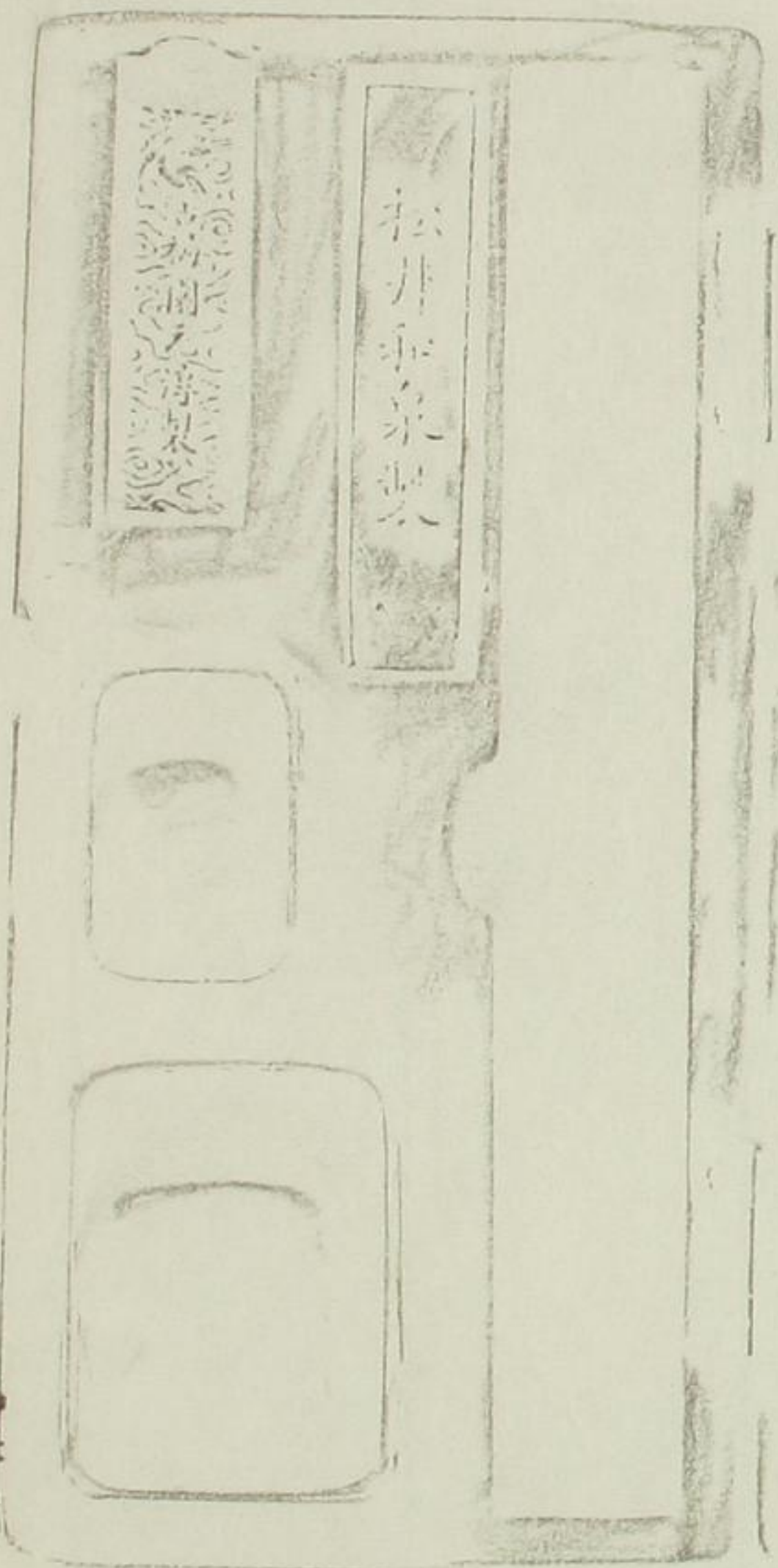
明治八年より西京地

則に厚志より

布衣の余主徳

とらふ、師岡正徳のまゝ、昭和七年七月、吾の法を宣ふに、中根東信
中根と云、洋綴本を成すに、この中根と云、お前、幸地、遠く、このまゝ
このまゝ、丁綴を、このまゝ、幸地の、中根、仲と、師岡、法、師、始、の、ま

法、師、ま、ま、お、前、ま、ま、地、若、法、ま、ま、仲、ま、ま、ま、ま、
面白、男、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
馴、度、ま、幸、法、秋、水、ま、ま、ま、師、岡、正、徳、始、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
正、規、序、款、合、ま、ま、刊、り、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、



旅硯函 古文印啓入 一具

物成り送物に寄る物成り元々母々皇の姓家苗甲午五甲午苗女
の用わく所へ桑をさす凝りたる手脈得る旅硯函より
とほいとうと云

乾降朱鏡 十五名 一挺



聖母聖園 聖母大學お持しき 遊楽しき 暑く御座り此以未鏡
三挺一帳と云す 朱色漆紅 重く場より文振り 師の金と墨と
本庄のりよりいふ味之 賞格掛りし 昭和十八年功績より此一
帳と題し 帳と胡蝶と金魚と文の錦と市每に坐有と飾りし

二 聖母と云る

修玉用墨 五名、精生稿珍函入 一挺

聖母聖園

瑞庄堂熊谷直行謹製



麻布官書筆戸及本活名人所貯

有送後用墨 二挺

津藩校所用之者皆二十五分の一と云く一と山名を誘ふ所用と歟



津藩校所用之者皆二十五分の一と云く一と山名を誘ふ所用と歟

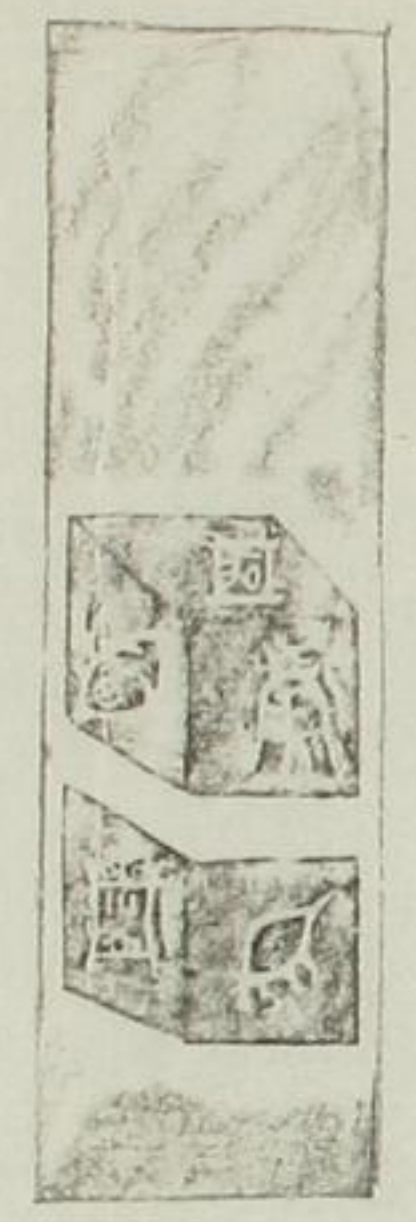
全二易之工世公より淑令と土井聲才常用の由一と山田出口安生
君より芳山 學生の日取を佳承より石原空肥瘦りたふせ
存し之を以て月法をを物書の日法を空崎を人
より有造館より墨たり生所より現る中よりと云く

梅仙墨 一板



銘天香よりつふ墨之早香早の佳
よりのも世無君よりよりる香もを
よりよりより

五岳墨 一板



五岳五款象形作式上品下平分陽刻
書五山之名小五岳印四方各一寸五分
五岳下家五岳藏書四字

非常之長光の流る墨と 田中吉長白愛用のより 前年安田和之
今 初善善之世公より善次 君吉長よりより 野よりより
元禄墨 一板



徳全箱と墨

右明治四十二年十二月十日付津金戸町川石田久冬又
 其より承継し二挺の墨を
 進上元禄墨二挺 次甲九
 十五の母 糸丸菊丸
 其の母古き墨を考ふる墨百年の墨を珍りし物も
 十一日年と
 古世法所々 宗匠五年十二月廿七
 二二録く
 龍光美載墨 一挺

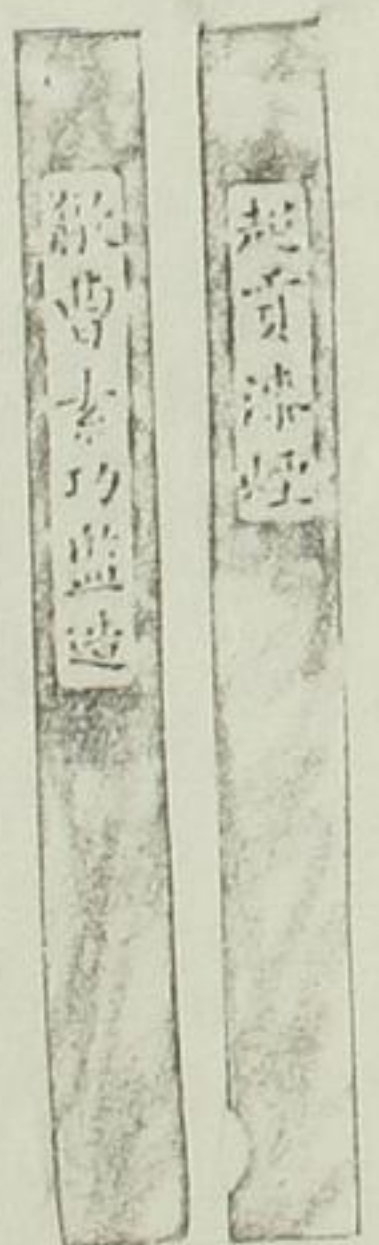


徳全箱文
字孺者
玄珠入

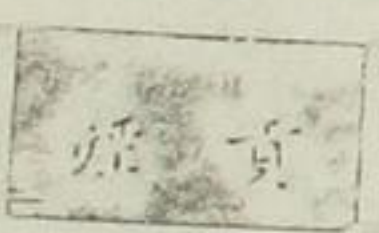
駿松珠 玄珠入 一挺

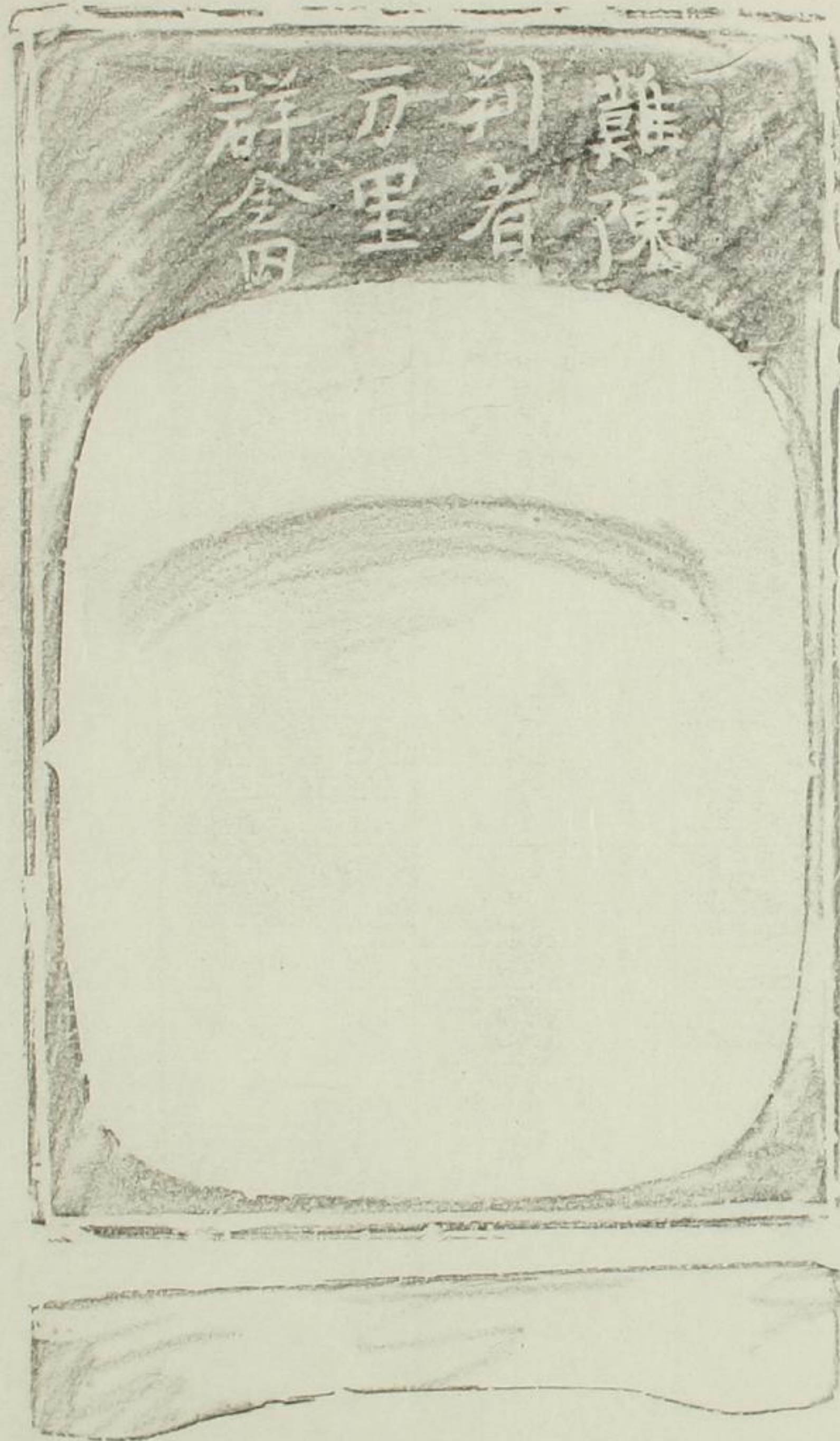


存古をとり



大正明治令、終り、其の
 其より承継し中より
 免羅山房 玄珠入 一挺





難陳碑

一面

蓋坊石自作日常所用

蘇州府志

蘇州府志

三井寺... 西園寺... 蘇州府志

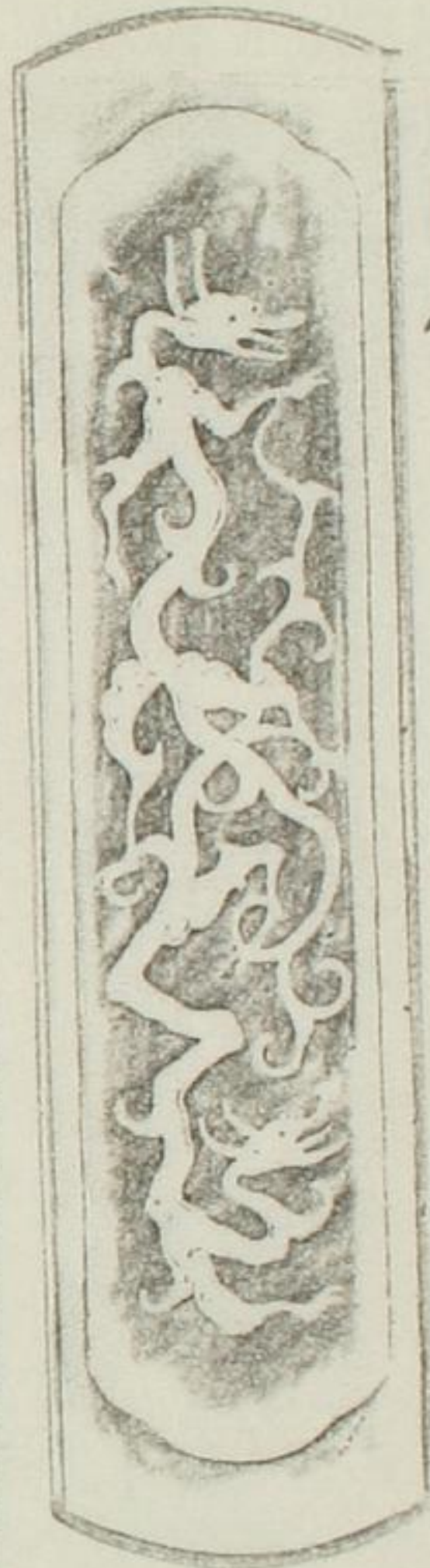
四



蘇州府志

古諭慶

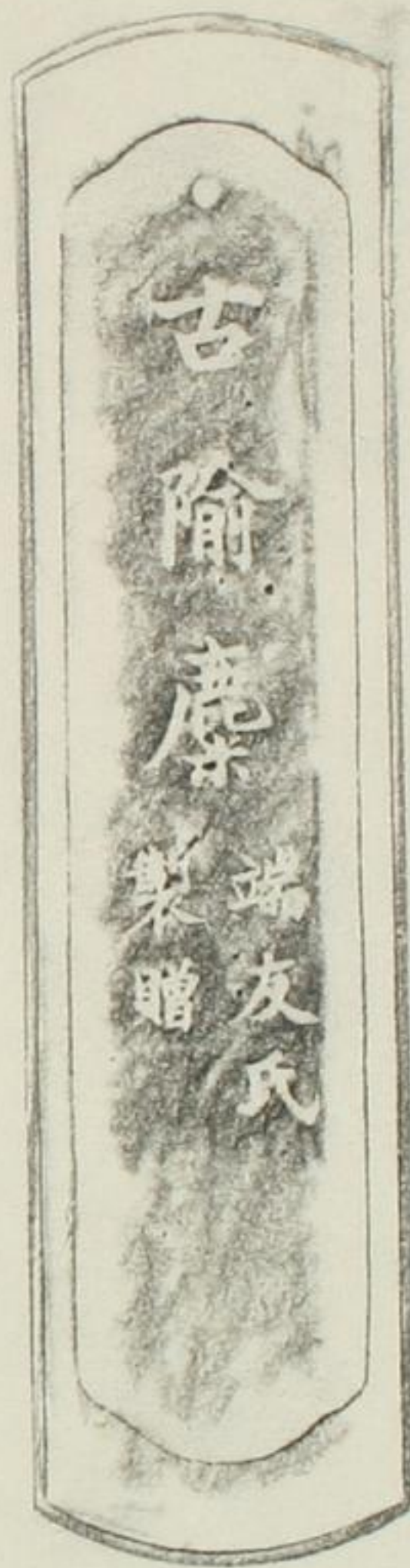
通入古珠入一柱



古諭慶

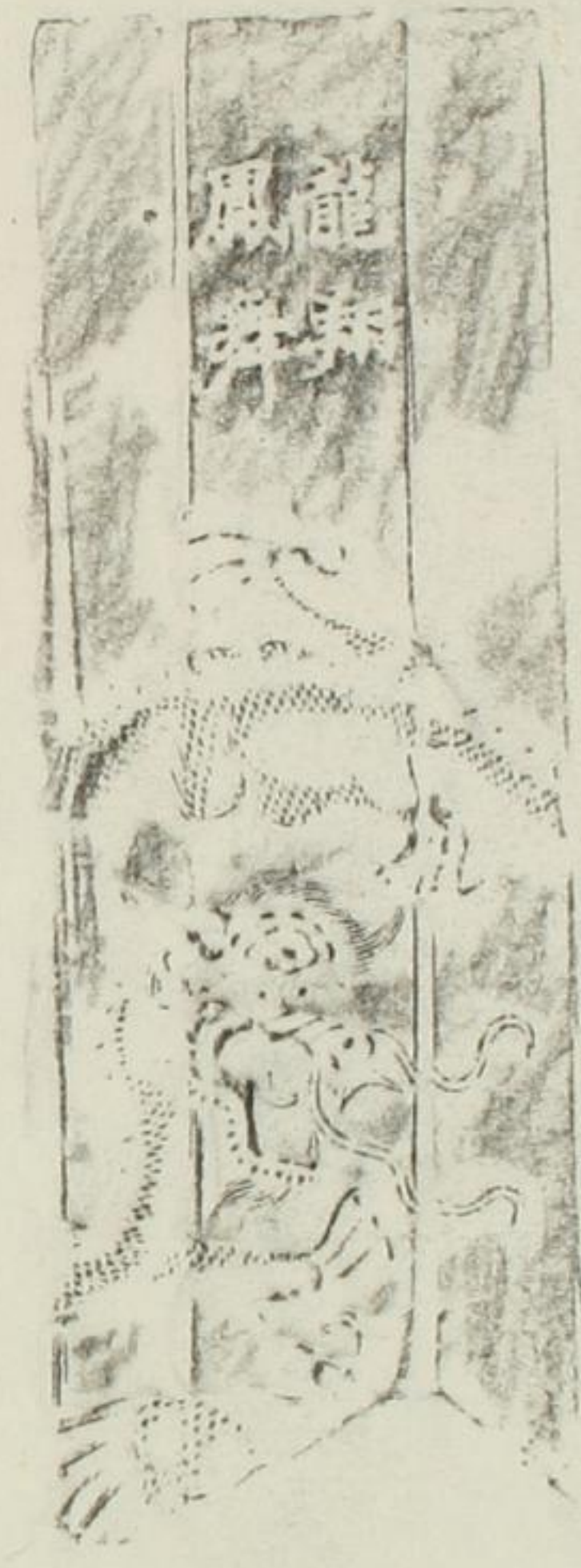
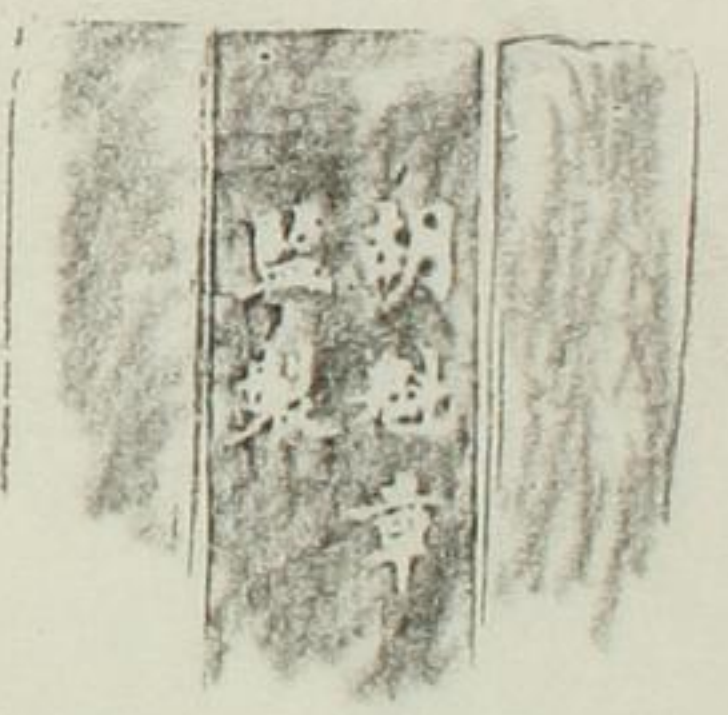
蘇州府志

蘇州府志



古諭慶 瑞友氏 製贈

方之と古世斑山 贈り物、
 古の古銀板金製之、
 と云ふ、水海の石を
 古銀製言古水口の本
 古初め、日本用の用
 中拉分、
 古銀、
 古銀、
 古銀、
 古銀、



芝草堂 一挺



嘉慶年製
 嘉慶年製



猪尾祿 一牙

文化三安麻布永坂伝石
 二牙、
 一牙、



筆架 一個

長二寸五分、高五分、古銅鑄造、面を筆架と木の
 こぼれを意匠とし、結ぶところを、木彫り、
 のちのちしるし、古銅を、しるしに、何處田舎、
 之を、一四半、といふ、と、
 脚形、
 と、
 神の、

銀製文鉢 一對



此の銀の、
 此文鉢と、



銅製文鉢 一對

其の形も厚天 神田佐三三目通多を以て之を以てを以て
 釘と今に後多 全ちのる 又世よりして 常呂の前録を以て之を
 之を或日こみ文録とのべて之を 理を因る白と云ふより 其の
 形を以て之を 釘と云ふに 専ら之を以て之を 片切釘と云ふ
 こみ之 釘と云ふに 之を以て之を 釘と云ふに 釘と云ふに
 之を以て之を 釘と云ふに 釘と云ふに 釘と云ふに 釘と云ふに
 釘と云ふに 釘と云ふに 釘と云ふに 釘と云ふに 釘と云ふに

方釘文録 一箇



其の形も厚天 神田佐三三目通多を以て之を以てを以て

三十九年 其の形も厚天 神田佐三三目通多を以て之を以てを以て
 其の形も厚天 神田佐三三目通多を以て之を以てを以て
 其の形も厚天 神田佐三三目通多を以て之を以てを以て
 其の形も厚天 神田佐三三目通多を以て之を以てを以て
 其の形も厚天 神田佐三三目通多を以て之を以てを以て

扇形書録 一介

扇形と云ふは 形も少極と云ふに 其の形も少極と云ふに
 其の形も少極と云ふに 其の形も少極と云ふに 其の形も少極と云ふに
 其の形も少極と云ふに 其の形も少極と云ふに 其の形も少極と云ふに
 其の形も少極と云ふに 其の形も少極と云ふに 其の形も少極と云ふに

釘 一丁



其の形も厚天 神田佐三三目通多を以て之を以てを以て

銀測時針 一箇 片硝子板に貼る



径九分五厘
厚二分五厘
大さきあり
巾が五三微
ふしりば

去年のいふ型が著しく初め持ちかゝる鉄銀古きもの
珍重とせざるは日増しに軍需外出する自給時計
てわざとていふにわが国の神のたまはるる運命を
いふは危し山をさすはるる此時計を求むる今初上
二日知とも中ふも有る少なり

八足机 一脚

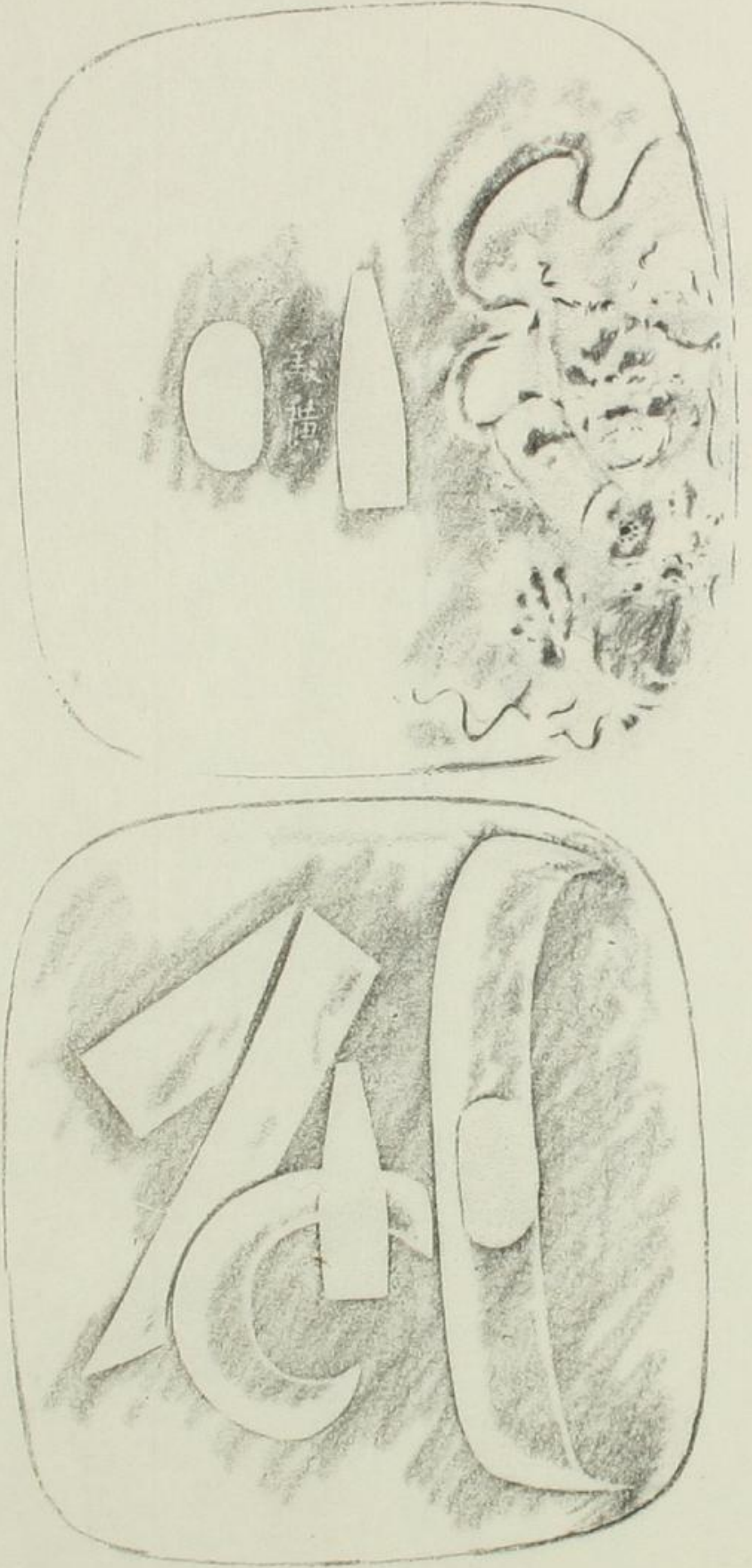
生川美の島王町に弘洲神事日用の机
代神といふもの御山物にて作らるる
之助といふ踏巻にて作らるる
助米穀検査所にて勤め井波の神
と介といふ瀧りといふとて之を
ししがたて却て止むとて三崎
といふと今日用いする
てをといふ助米先を曰机と
く山をといふ日用の机と
とてをといふ瀧りといふとて

之と羅のそまじしものぞ強一尋と大さなりまふそ倉庫と紅
 膚の抽匣七つなりソクは深く袖はまじがたに片行なり
 いとくわふ今をまじそは二回より三回あり又若山
 葉のしり産あり身ゆくと瑞雲をあらうと折長は形似
 大車子四脚なり一脚と匠をまじし四天四方なり洗板一枚
 ののそ相製多あり少なきとまじし物とゆくと漬と二つあり
 といふしんむ

鏡面し 一振

鏡より四寸五分釘あり、刀才と橋と徳と似たり柄鞆と踊る柄
 匠より三折の鏡あり、各銘あり作より一先考述知

名鑑半肉密迹全剛彫利鏡鐔 西入 一枚
橋本竹治 全四巻 巻八 八百四



煙草入 一具

前鏡 素銅根、破笠及草、金 裏座石目打、銀、
 海師膳珉作有銘 先考遺物



結締 管玉 大和櫻井叔父所贈
筒 鉄刀木 石在石 嵌入 墨漆 磨申し
常岡文泉 姜 元 作



烟管 銀石目打 羅字 寸 寸 君紋の如き 雁ちり

比

莊辰加珠 一連

望煙 硝子玉、内々 寄、石智まゝ、こりう、時内々、祖母の世も
て 浅草寺に 訪てし、が、何、中、の 羅、を、も、を、の、を、お、粒、珠、を、穿、つ、
て、下、を、い、と、よ、と、い、ま、あ、と、何、が、と、と、門、海、あ、そ、こ、れ、を、穿、つ、て、世
り、く、ま、歩、的、こ、こ、七、五、系、こ、こ、と、と、白、糸、未、兵、ま、ま、し、海、浦、の、
こ、こ、方、と、ま、ま、と、ま、ま、と、

望栗山先生印譜 一帳一冊

又新を抄三百冊

七三十中、之、五、分、帯、表、紙、山、中、共、五、分、文、行、奉、い、う、う、り、十
表、の、お、り、中、う、う、と、お、り、九、由、様、と、紺、木、綿、と、お、り、手、製、之、お、取
亦、お、所、筆、印、粒、約、百、枚、題、者、刻、者、名、鈕、形、材、質、不、栗、山
自、筆、之、認、り、り、り、名、秘、記、多、し、が、表、と、せ、り、流、し、

芙蓉先生印譜入本箱 一函 桐製外函

不死山房印譜箱入一函

箱 島桐、棚一、上棚十二冊、下棚十四冊入、箱蓋に

不死山房印版 二套、廿陸巻、上、墨書、周邊君紋

朱文二栗並三回言印の印あり、蓋表に

甲斐高彪彌皮 氷壺 逸記とて、紙貼、何、側、右、芝

界九切

四十二

芳名生自筆、話

遠落石不謬初集 十二冊

長巻五外中三十五卷黄蠟紙表紙也、遠落石不謬初集と
書し朱文小氏永任小侯確の作と云す、五冊双蓮墨格不續
每四印板心下小篆木石居界紙を用ひ印紙貼付、白文九
冊朱文三冊印紙壹千壹百零九

同 二集 十四冊

初集の口く、五巻尾に白文嵩雨白の方印あり、白文七冊
朱文七冊印紙壹千〇九枚也

遠落石印謄 三集 一快十四冊

紅唐紙表紙墨格を滿ると云は外縁初集の口く、快と文

紗白文三冊朱文八冊朱白四印一冊朱白連印二冊印紙九
百五十二

芙蓉先生刻名表印紙 一冊

其外五分中五分一分唐紙表紙紙綴外彫松木五峰の彫墨
格と云く松木名遠落石不謬半あり和名と人々名と云く
貼付し、る之此外より、実々名表と云く尚多あり、其々あり、
今々あり、と云くあり、と云くあり、と云くあり、と云くあり、
存室紙と朱文大條あり、遠落石所刻松木名不謬と、田中恒新
名表あり、と云くあり、此等、印紙の紙計三千二百五十三

附巻 一巻

七二子三不堂種袖綴と表紙、と云くあり、田中恒新名と、依りしあり

予、之、之、故、何、其、上、聖、と、い、は、し、不、況、三、年、後、其、極、其、之、極、其、
 此、之、レ、所、下、之、重、三、百、田、乃、五、四、百、田、位、上、有、一、と、い、は、し、或、は、四、百、五、田、三、
 卷、レ、二、三、と、又、五、百、田、三、と、卷、レ、一、と、い、は、し、而、も、其、印、ノ、時、ハ、目、下、未、
 定、ニ、ウ、ト、モ、其、分、三、月、八、九、兩、日、下、見、十、日、奉、立、一、年、勿、論、三、年、
 以、一、考、之、也、不、亦、級、者、用、ノ、事、也、右、地、上、初、年、小、生、ノ、知、ラ、ル、大、老、
 其、之、ハ、ナ、リ、極、務、以、未、二、ウ、ト、思、ハ、シ、小、生、ノ、冷、気、牙、々、カ、世、之、云、
 是、山、和、リ、三、月、日、三、云、
 三、村、清、三、年、修、史、
 二、月、廿、四、日、
 山、田、市、一、志、久、任、行、
 松、野、安、平、
 拾、啓、云、以、何、世、跡、を、考、ル、初、年、を、立、ニ、於、テ、不、極、小、生、ニ、累、九、了、一、後、
 卷、百、田、三、と、卷、五、百、田、三、と、云、ハ、シ、正、三、年、了、一、命、を、其、者、ニ、在、シ、ウ、レ、ム、
 不、亦、級、者、用、ノ、事、也、以、何、世、跡、を、考、ル、初、年、を、立、ニ、於、テ、他、ニ、在、シ、ウ、レ、
 一、以、何、世、跡、を、考、ル、

三村清三郎 松野安平

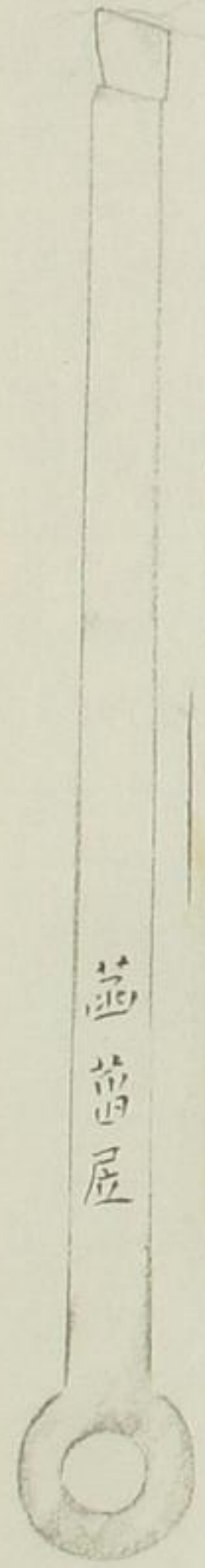
三月九日

松野安平

科、啓、印、簿、を、送、之、と、送、定、了、次、多、ク、厚、多、忙、ノ、お、彼、是、向、左、
 漸、ク、為、其、玉、未、修、了、何、も、任、候、申、上、重、不、級、ニ、テ、合、口、送、送、合、方、
 形、ノ、様、送、上、候、申、上、又、ク、送、送、候、ニ、テ、在、様、候、申、上、小、白、後、三、年、
 一、年、ハ、予、ニ、修、了、以、何、世、跡、を、考、ル、初、年、を、立、ニ、於、テ、上、三、年、
 一、年、ハ、予、不、亦、級、者、用、ノ、事、也、
 三、村、振、修、史、
 三、月、廿、四、日、
 松、野、安、平、

芙蓉先生印刀

一杯 桐葉入



芙蓉先生印刀

五子

子不仁 此其自殺折者之文 劇以水之 敬慶と 止むし 上病
 死より 往々之 道より 拈神を 世より 此より 往々之
 命より 往々之 命より 此より 往々之 命より 往々之
 り 蝶屋之を 補ひし 不夜矣 命より 命より 命より 命より
 と 又、命より 命より 命より 命より 命より 命より

牛舌果 梅仙製 全箔装 相入一挺



以上より 此紙 日吉町の 筆取より 命より 梅仙製と 命より 命より
 命より 命より 命より 命より 命より 命より 命より 命より

龍風墨 梅仙送 相入 三挺



大正四年乙丑六月廿六日
 世即葵園君持贈

大正五年 相入 三挺

昭和七年 相入 三挺 前同 田田 通定 四日 母多 命より 命より

白年さんよ世にそのおのれをいふる中を人の心をいかに
 けりあらしめて、またやあつたのうらまへとてなりてを
 とらふをよき事とていふるをばけりあつた。

杜因作相を写人 一々



芭蕉の著る文振るるの衣、相を禱、子を抱きしめ、
 以て知事と彫る名をいへり内久一が納波をいへ
 人の御心こ相に柱としけ、若く思入る中を禱る。

芳お玉被をを購ふ

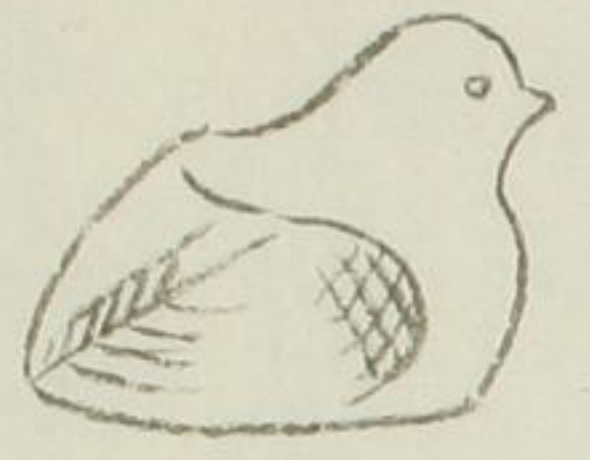


出目と海作釋と面 一々



此の玉被をを購ひけし
 十銭と云ふ

飛騨彫鳥七作造 一々



此の鳥造物の時、名をいへり
 と名をいへり、北早、名をいへり、蒸
 けり、名をいへり、名をいへり、名をいへり、
 名をいへり、名をいへり、名をいへり、

以上、非常、其のし由にて、相の如く、相をいへり、
 田平均、相をいへり、相をいへり、相をいへり、

と着御多し心身を清くあけし一ツにおもひ寄るあまの垣垣一ツに
 りしうとふとめあまとおもひをりし
 加納鏡丸作鳩竹若入 角のそり入 共名入一箇



蝶蓋

五歌

蓋表
 蝶式刀物

琴女姉妹の送物之草子之義母田中苗女の子

行滅上人粒珠袋 一枚

目地法書
 一筆記述

牡丹針袋
 形自縁子

南無阿弥陀佛

花巻香筒

空草子
 草金襴

草紋金襴

又新衣をよむ心は外に名世に所
 五十二

智浦和上紺紙金字法曼荼羅 二套

今泉確作為旧物在田之購、一は掛屏能大阿二千五十年を忘法
楽茶室一千枚(有智浦)一は比良智浦拜をけりて此の自紙
リ智浦在河自華法曼荼羅今泉確の板升老院大圖よりリ紙を假
子仕立、中紙金箔押之表紙今泉のよりしり

香川勝元作素銅牡丹帶留 有銘一々

相五入素銅牡丹帶留止とて素三香川勝元此物と書と若
一は素銅金印と括之、此は勝元其女の為に造りしもの、其
蘇庵より、そのよりしり、今泉勝元自今泉蘇庵梅片
切彫之よりしり、之蘇庵中今泉と書と括之、此は勝元其
の常安金蘇庵の留止とて括之、勝元よりしり、勿御之、此は勝元

作年銀金印文朱と書蘇庵法、就下、

九谷繁著草作漆付世解衣盒 相五入一々

昭和十六年十一月黒田四日具經臨外路に於て朱印
給画看合快を其よりしり、此は松之よりしり、蘇庵、其
作年蘇庵衣盒、其よりしり、此のよりしり、

香取英吉造此鑲銀水海 相五入一々

昭和八年在りし魚高の年印吾作物と賜りし
了と書し、之今と括之、此は印之、其よりしり、水海、銘
之刻、不之、其よりしり、此は小刀之、其よりしり、其よりしり、

鑲銅柳文水海 素長為作相其各一々

蘇之乙亥臘月梅和意造と有り銘

結陰地窓香茶 表紙地 一ヶ

多々川美度天世松竹梅切 一ヶ

銀子之世並とつろ 珊瑚珠と紅梅の著ニ之嵌入、病子松
の着並と此印とを、何の時世著り之

同 若新文誌 初巻入 一ヶ

胎銀子之缺とつろ 銘ニ美度世と銀り、鈕ニ素明とと指
り極とつろ、此迄匠之著り之と印と美度君と在
と括注、表裏極首の展覧会、出帯し之と之と表裏とつろし之
予其のまゝ。

息縁残寶鈕巻二

